独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要投稿原稿執筆要領

令和５年４月27日

独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要編集委員会

１．趣旨

本要領は、独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター（以後、「研究センター」という。）が発行する、独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要（以後、「紀要」という。）の投稿原稿の執筆に必要な事項を定める。

２．投稿原稿の構成

投稿原稿は、原則として添え状及び本体で構成されるものとする。添え状及び本体に記載する項目は、表１のとおりとする。また、添え状と本体は別ファイルとすること。

表１　添え状及び本体に記載する項目

構成	項目	留意点
添え状	表題	和文、英文両方で記載する。
	著者名	著者全員分の氏名を和文、英文両方で記載する。
	所属機関名	著者全員分の主たる所属機関の名称を記載する。
	原稿の種類	「論文」または「報告」のいずれかを選択し、記載する。
	文字数	本文の文字数を記載する。
	図表及び写真の枚数	図、表及び写真のそれぞれの枚数を記載する。
	二重投稿の有無	本稿が二重投稿でない旨を記載する。特に、類似内容の既報あるいは他誌への投稿がある場合には、その原稿との相違点について記載する。
	共著者の役割	共著者による執筆の場合、全員が本稿の内容に責任を持つ旨を記載する。 また、各著者が本稿においてどのような貢献をしたのか具体的に記載する。
	利害の衝突の有無	本稿について利害の衝突の可能性がある場合には、その内容（コンサルタント料、寄付料、株の所有、特許取得等）を記載する。
	連絡先	連絡先となる著者の氏名、住所、電話番号、Eメールアドレスを記載する。
本体	原稿の種類	添え状と同様に記載する。
	表題	添え状と同様に記載する。
	要旨	本文の要旨を400字（10行）以内で記載する。
	キーワード	本文の内容に関連するキーワードを３～５個（合計１行以内）記載する。
	本文	図表、写真及び引用文献・参考文献・注は本文中に挿入する。

３．原稿の分量

原稿の分量は、原則として添え状が１ページ、本体が図表、写真及び引用文献・参考文献・注を含めて10ページ以内とする。ただし、編集委員会が認めた場合は、この限りではない。

４．執筆の手段

執筆は、マイクロソフト社オフィス（Office）のパソコン用ソフトのワード（Word）を使用すること。

５．本体の書式等

（１）書式（別紙「執筆例」を参照すること。）

① 原稿は、A4用紙を縦置きで使用し、特別の場合を除いて横書きとする。

② 用紙の余白は上下左右各25mmとし、１ページあたりの文字数は40字×40行（1,600字）とする。

③ 文字・数字・記号のフォントはMS明朝とし、サイズは10.5ポイントとする。ただし、原稿の種類と表題のサイズは12ポイントとする。

④ 文字・数字・記号は、アルファベット及び２桁以上の算用数字のみ半角とし、その他は全角とする。

⑤ 本体は、１ページ目の最初の行に左寄せで原稿の種類を記載し、１行開けて和文、英文両方の表題を中央寄せで記載する。また、表題とキーワードの間は著者の人数×４行分を開ける。

⑥ 図表及び写真を除き、本文中の見出しの番号は原則として「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ…」、「１、２、３…」、「（１）、（２）、（３）…」の順に用い、「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ…」及び「１、２、３…」の上１行分を開ける。また、箇条書きの番号は、「①、②、③…」または「ⅰ、ⅱ、ⅲ…」を用いる。

（２）図表

図表は、図と表を区別して「図１」「表１」の要領により算用数字で一連の番号を付けるとともに、図については下部、表については上部にそれぞれ見出し及び必要に応じて注釈を付ける。なお、図表番号及び見出しのフォントはMSゴシックとする。

（３）写真

写真の取り扱いは図に準じるが、白黒で写りの明瞭なものを使用すること。

（４）引用文献・参考文献・注

引用文献・参考文献・注は、本文中の該当箇所の右肩に「[1)]」、「[2)]」の要領により一連の番号を付け、その番号順に本文の最後にまとめて記載する。その際、パソコン用ソフトの注を作成する機能は使用しないこと。また、記載例は次のとおりとし、「拙稿」「拙著」等の投稿者が特定される表現は使用しないこと。

① 論文の場合：著者名 論文名 誌名 巻号、発行年、掲載ページ

例）神園太郎「青少年の未来」『青少年研究』第８号、1995、pp.10-15.

例）Wellvalley, J.“Adolescent Girls and Outdoor Life”Journal of Youth Research 8th, 1999, pp.356-379.

② 単行本の場合：著者名 書名 出版社、発行年、掲載ページ

例）代々木花子『野外活動概論』青年書房、1992、p.98.

③ 共著本の場合：執筆者名 タイトル 編者名 書名 出版社、発行年、掲載ページ

例）神園次郎「アメリカにおける野外活動」代々木花子[編]『世界の野外活動』神園出版、2013、pp.95-120.

④ 翻訳書の場合：著者名／訳者名 書名 出版社、発行年、掲載ページ

例）ディーン，J.／渋谷次郎訳『青少年とメディア』少年書院、1989、pp.75-76.

⑤ Webサイトの場合：著者名 記事等のタイトル Webサイトの作成者名、URL、参照日

例）渋谷次郎「青少年の現状」青少年教育普及協会、https://top.shibuya.go.jp/、2008年７月７日参照.

ただし、Webサイトに掲載されているPDFファイル等から引用した場合、そのPDFファイルのページ数や章等、該当部分がわかるよう記載すること。ただし、紙媒体等の冊子・報告書形式でも発行されているものについては、原則その冊子・報告書名を引用文献として、上記①～④と同様に記載すること。

６．その他

（１）執筆にあたっては、著作権・肖像権等に十分留意し、写真については本人の承諾済のものを使用すること。

（２）掲載が認められた原稿について、編集の都合によりレイアウト等の変更が必要な場合は、研究センターより投稿者へ連絡する。

（別紙）

執筆例

【論文（または報告）】

○○○○○表題（和文）○○○○○

○○○○○表題（英文）○○○○○

※著者の人数×４行分を開ける。
（掲載確定後の入稿時に、著者全員分の氏名と主たる所属機関を記載する）

要旨

○○○○○

表１　○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○